

ナガエツルノゲイトウに警戒してください！

令和 7 年 1 月下旬に岡山県倉敷市内の小田川河川敷において、特定外来生物（※）に指定されている多年草のナガエツルノゲイトウの生息が確認されました。本種は水田や畑で繁殖すると、作物との競合による収穫量の減少や農業機械の作業性の低下をもたらすとされています。

これまで、県内では水田や畑など農地での発生を確認していませんが、今後の侵入に備えて十分に警戒してください。

1 対象名 ナガエツルノゲイトウ (*Alternanthera philoxeroides*)

2 対象作物 作物全般 特に水稻

3 生態及び被害

- (1) 本種は南米原産の多年草である。
- (2) 開花期は 4～10 月であるが、国内の系統は種子を付けず、茎や根で増殖する。
- (3) 茎の再生力が強く、数センチの断片から容易に発根して増殖する。
- (4) 茎はちぎれやすく水に浮き、断片が用水・河川を介して運ばれるため拡散しやすい。
- (5) 直根は土中で 50cm 以上伸び、根断片からも再生する。
- (6) 水陸両生で、畦畔や畑地にも侵入する。
- (7) 水田や畑で繁殖すると、作物との競合による収穫量の減少や農業機械の作業性の低下をもたらす。

4 診断及び見分け方（別紙）

- (1) 葉は節から一対の葉が付く。葉の長さは 2.5～5 cm、葉の幅は 0.7～2 cm で、葉の先端はややとがる。
- (2) 茎は空洞（ストロー状）で、節に短い毛が生える。茎の表面はなめらかである。
- (3) 葉の付け根から花柄を伸ばし、その先に白い小さな花を球状につける。花柄の長さは約 1～4 cm、球状花の直径は約 1～1.5 cm である。

5 その他

農地や畦畔において本種と疑われる事例を確認した場合は、岡山県病害虫防除所（086-955-0543）、県農業研究所 作物・経営研究室（086-955-0275）にご連絡ください。

※特定外来生物とは、海外起源の外来種のうち生態系や農林水産業などへ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定された外来生物で、放出、栽培、保管、運搬、譲渡、輸入などが禁止されています。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。



(別紙)

ナガエツルノゲイトウの特徴

同定ポイント

【葉】

- ・ 節から1対の葉が付く
- ・ 葉の先がややとがる

【茎】

- ・ 茎は空洞（ストロー状）
- ・ 節に短い毛が生える
- ・ 茎の表面はなめらか

【花】

- ・ 花柄は葉のわきから伸びる
- ・ 花柄の長さは約1～4 cm
- ・ 花は、小さな花が集まった球状

【葉】

節から1対の葉

葉の先はややとがる

1cm

長さは 2.5～5 cm

幅は 0.7～2 cm

【茎】

1mm

茎は空洞（ストロー状）

節に短い毛

茎の表面はなめらか

節からよく分枝

【花】

球状花の直径は 約 1～1.5 cm

花柄は約 1～4 cm

花柄は葉の脇から伸びる

水田や畦畔などにみられる間違えやすい植物

※ これらの種は**特定外来生物ではありません。**

ツルノゲイトウ（外来種）



- ・ 球状花は葉の脇にくっつく

※ 花のない時期は見分けが困難

アメリカタカサブロウ（外来種）



- ・ 葉の鋸歯は明瞭
- ・ 花は球状でなく平たい

タカサブロウ（在来種）



- ・ 葉の鋸歯は不明瞭
- ・ 花は球状でなく平たい

スベリヒユ（在来種）



- ・ 葉の先は丸い
- ・ 葉は互生（交互につく）
- ・ 花は黄色

シロツメクサ（外来種）



- ・ 葉は3小葉
- ・ 葉に白い紋
- ・ 球状花の直径は 2 cm

図 ナガエツルノゲイトウの見分け方

※出典：ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル（農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構）

※写真提供：一般社団法人自然環境研究センター